

北海道の港湾の特徴

(1) 広大な背後圏

- ・北海道は国土の22%を占める広大な面積を有し、都市間距離の長い広域分散型の構造となっている。
- ・このため、一つ一つの港湾の背後圏が広大であり、地方港湾が重要港湾を補完する役割を担っている。

(※重要港湾以上の1港湾当たりの国土面積

:北海道を除く全国 2,607km²、北海道 6,952km²(北海道を除く全国の約2.7倍)

(2) 市町が中心の港湾管理

- ・内地港湾の多くは都府県、政令指定都市による管理であるのに対し、道内では市町による管理が中心。
(苫小牧港及び石狩湾新港のみ、道と地元市により構成される「一部事務組合」による管理。)
- ・市町が港湾管理を行うことは、地域振興の観点等の利点もある一方で、脆弱な財政基盤等の課題もある。